



No. 1

2015

CONTENTS

ニューズレター創刊のごあいさつ	1
協賛企業	1
人間生活文化研究所 研究費助成事業	2
電子書籍「Otsuma eBook」	3
大妻女子大学 戦略的個人研究費	4
日本学術振興会 科学研究費助成事業 平成27年度採択課題	5
競争的外部資金の獲得支援事業	6
オンラインジャーナル 「人間生活文化研究:International Journal of Human Culture Studies」	7
人間生活文化研究所 研究費助成事業関連 カレンダー	8
〈付録〉平成28年度科研費申請に向けて	

〈大妻女子大学人間生活文化研究所〉

ニューズレター創刊のごあいさつ

人間生活文化研究所は「大妻女子大学人間生活文化研究所」として、昭和56年(1981年)に設立されました。設立の目的は、東日本では嚆矢となった家政学系の大学院博士課程を設置するに当たり、基盤となる研究教育組織を設けることでした。やがて、本研究所は4研究部門を擁し、研究と大学院教育に特化した大妻女子大学のフラッグシップを担う組織となりましたが、時代の変化に応じて平成20年(2008年)に改組となり「大妻女子大学人間生活文化研究所」として新たにスタートを切りました。旧研究所の主要関心が所内各部門の研究活動にあったのに対し、新研究所では、次のような事業を行っています。

研究費助成事業

- 共同研究プロジェクト
- 大学院生研究助成
- 研究員研究助成
- 戦略的個人研究費

競争的外部資金の獲得支援事業

- 学内における科研費申請支援
- 外部資金情報データベースシステム

電子出版事業

- オンラインジャーナル「人間生活文化研究」
- 電子書籍「Otsuma eBook」
- 研究員・研修生の受け入れ
- 産学共同研究
- 国際学術研究・協力・交流

このニューズレターでは、各種事業に関する最新情報や研究に役立つ情報を紹介していきます。大学にあって「研究」は「教育」と並

んで重要な位置を占めます。本学が今後、より一層の発展を遂げられるよう、私たちは「研究」の立場からそれを支える組織であり続けていく所存です。皆様には、本研究所へのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



大妻女子大学
人間生活文化研究所 所長
副学長

大澤 清二

協 賛 企 業

人間生活文化研究所の事業は、多くの企業の皆様からご支援いただいています。

前田建設工業株式会社
鹿島建設株式会社
清水建設株式会社
株式会社大林組
ダイダシ株式会社
株式会社三井住友銀行

株式会社九電工
山崎製パン株式会社
株式会社オンワードホールディングス
三菱地所株式会社
株式会社岡村製作所
富士ゼロックス株式会社

株式会社三越伊勢丹プロパティ・デザイン
キュービー株式会社
東京ケーティング株式会社
株式会社内田洋行

(順不同、2015年6月30日現在)

人間生活文化研究所 研究費助成事業

人間生活文化研究所では、大妻女子大学の教職員、大学院生、研究員を対象に、さまざまな研究費助成制度を設けています。

■ 共同研究プロジェクト

学内における研究者間交流の促進、新たな研究課題の発掘、競争的外部資金への応募促進を目的とする助成制度です。助成の対象は、本学の専任教職員を代表者とする共同研究。異分野の研究者で構成されるこのプロジェクトでは、平成20年度からこれまでに150以上の研究課題が遂行されてきました。

平成27年度 共同研究プロジェクト 採択課題（16件）

所 属	研究代表者	研究課題
家政学部	青江 誠一郎	マウスの腸内代謝を介した各種食品成分の慢性炎症抑制メカニズムの研究
家政学部	明渡 陽子	学童期小児の運動器(骨と筋肉)発達に及ぼす生活習慣因子の影響
家政学部	阿部 栄子	和服製作技術の構造と伝承
家政学部	大網 美代子	ユニバーサルファッションの設計・デザインに関する開発研究
家政学部	大西 一也	昭和期の生活文化に関する研究(1)パン食の普及と受容
家政学部	金田 卓也	ネパールに於けるカーストとその生育環境が児童の身体発達に及ぼす影響
家政学部	小林 実夏	食文化・食環境・食習慣・健康リスクの相互関連性評価法の開発
家政学部	高波 嘉一	健康度測定イベントによる健康状態の見える化は特定健診の受診率向上に寄与するか
家政学部	田中 直子	ミトコンドリアが誘導する脂肪細胞の炎症性変化の細胞生物学的研究
家政学部	中川 麻子	女性が選好するアメニティ空間と家具に関する研究(2)
人間関係学部	西河 正行	心理学教育を通じた社会人基礎力の育成
人間関係学部	福島 哲夫	心理臨床および栄養教育における臨床的介入への実地指導に関する研究
人間関係学部	古田 雅明	臨床心理士のキャリア形成に関する基礎研究
社会情報学部	本郷 健	「情報的な見方・考え方」の枠組みに沿ったモデルカリキュラムと教材の提案
人間関係学部	町田 章一	女性の職業選択と大学進学動機に関する実証的研究(2)
家政学部	水谷 千代美	高機能性化学繊維の医療・介護分野における臨床評価

■ 大学院生研究助成(A)(B)

本学大学院の教育・研究を高度化、活性化することを目的とする助成制度です。助成(A)は大学院修士課程・博士後期課程2年生以上、助成(B)は修士課程・博士後期課程1年生が対象。この制度は、本研究所の協賛企業からの賛助金により運営されています。

平成27年度 大学院生研究助成(A) 採択課題（17件）

所 属	課 程	課題申請者	指導教員	研究課題
臨床心理学専攻	修士	伊藤 里恵	加藤 美智子	発達障害児支援を行う学生ボランティアへの支援システムの構築
言語文化学専攻	修士	岩崎 恵音	小林 昌夫	『リア王』における権力
現代社会研究専攻	修士	大熊 孝夫	前納 弘武	ルールからみた相撲の世界(相撲研究の一視点)
言語文化学専攻	修士	金丸 志桜里	森岡 修一	群馬県における日系ブラジル人二世・三世の教育 一現状と課題一
言語文化学専攻	修士	グエン ティ ホアミー	吉田 光浩	日本のドラマにおける謝罪表現について 一ベトナム語母語話者の観点から一
人間生活科学専攻	修士	佐野 美里	小林 実夏	栄養士養成施設卒業生の食習慣と健康リスク、食リテラシーに関する縦断研究
言語文化学専攻	修士	鹿野 美由紀	倉田 実	平安貴族女性の正装 裳唐衣装束について
臨床心理学専攻	修士	樽澤 百合	福島 哲夫	カウンセラーの共有不全経験についての検討
人間生活科学専攻	修士	中田 千聡	高波 嘉一	若年女性における骨格筋内脂肪蓄積が健康障害に及ぼす影響
人間生活科学専攻	修士	中山 恵理	小林 実夏	日本人妊産婦における食事評価方法の検討
人間生活科学専攻	修士	長谷川 千織	田中 直子	ミトコンドリアと脂肪滴の相互作用が脂肪細胞の炎症状態に与える影響
臨床心理学専攻	修士	堀 安由美	古田 雅明	大学院生における能動的学習とピアサポート・グループの関連
臨床心理学専攻	修士	堀江 智美	加藤 美智子	対人不安意識のある人における対人場面での体験について
言語文化学専攻	修士	松岡 美香	田口 孝夫	1950年代におけるイギリスの社会階級
人間生活科学専攻	博士後期	山岸 あづみ	青江 誠一郎	加工により成分変化した昆布の摂取が食餌性肥満モデルマウスの脂質代謝に及ぼす影響
人間生活科学専攻	博士後期	吉田 真知子	岩瀬 靖彦	幼児を持つ保護者の食教育におけるグループ体験学習が行動変容に与える影響
人間生活科学専攻	修士	渡部 菜	阿部 栄子	和服の柄合わせに関する研究

平成27年度 大学院生研究助成(B) 採択課題 (20件)

所属	課程	課題申請者	指導教員	研究課題
人間生活科学専攻	修士	磯田 有香	岩瀬 靖彦	小児専門病院におけるNST活動活性化プログラムがスタッフの行動変容に与える影響
人間生活科学専攻	修士	伊藤 陽子	岩瀬 靖彦	高齢者の低栄養予防のための意識および行動変容に関する研究
人間生活科学専攻	修士	尹 暁楠	小林 実夏	日本型食生活が中国人留学生の健康管理に与える影響
臨床心理学専攻	修士	薄井 瑛理香	向井 敦子	青年期における対人恐怖傾向と自己過程の関連
現代社会研究専攻	修士	木村 恵理	鄭 暎恵	家族の歴史からみる個人のアイデンティティ形成
臨床心理学専攻	修士	黒川 こころ	古田 雅明	青年期における抑うつとパーソナリティとの関係について
臨床心理学専攻	修士	酒居 美津代	加藤 美智子	高齢者に見られる困難体験の回想
臨床心理学専攻	修士	坂巻 詩織	古田 雅明	家族関係認知と食行動異常の関連
人間生活科学専攻	修士	阪本 秀典	石井 雅幸	小学生3年生の重さの概念獲得過程
臨床心理学専攻	修士	嶋山 ちひろ	福島 哲夫	正常解離の発生条件とその影響について
言語文化学専攻	博士後期	杉山 眞弓	時實 早苗	19世紀後半から20世紀前半のアメリカの女性文学に見る女性の仕事観
言語文化学専攻	修士	角南 梨央	大野 真	中国の戸籍問題は解決できるのか—上海市の事例を中心に—
臨床心理学専攻	修士	高坂 紗也乃	福島 哲夫	"思い出し羞恥"に対して生じる自己救済的な行動に関する検討
人間生活科学専攻	修士	土田 百恵	水谷 千代美	消臭抗菌性ポリエステル繊維の機能性評価
現代社会研究専攻	修士	仁科 薫	鄭 暎恵	日本における子育て支援政策の課題
言語文化学専攻	修士	ニン ティ ニャンバン	吉田 光浩	場面によって変化する自称詞及び対称詞の研究
言語文化学専攻	修士	福田 美蘭	倉田 実	中古の和歌における「かげ」—三代集と歌物語から—
臨床心理学専攻	修士	持丸 琴音	向井 敦子	重要他者による情報が自己概念に及ぼす影響
人間生活科学専攻	博士後期	山中 千恵美	青江 誠一郎	ミセル性リン酸カルシウムが肥満モデルマウスの生体利用性に及ぼす影響
言語文化学専攻	博士後期	渡邊 万里子	伊東 武彦	大学生英語学習者のWTCに関する長期的研究

■ 研究員研究助成

本研究所研究員の競争的外部資金への応募を促進することを目的とした助成制度です。この制度は、平成26年度より競争的研究資金として再出発しました。

平成27年度 研究員研究助成 採択課題 (2件)

課題申請者	研究課題
伊香賀 玲奈	脂肪細胞におけるアクアポリン8の翻訳後修飾による局在制御
中西 純	ネパールにおけるベジタリアンの子どもの発育発達に関する研究

電子書籍「Otsuma eBook」

人間生活文化研究所では、電子書籍の出版を行っています。電子書籍ならパソコン、タブレット、スマートフォン等にダウンロードして、いつでもどこでも手軽に読むことができ、本棚のスペースをとらず、色あせることもありません。また、印刷・製本・輸送費など、出版にかかる費用を大幅に削減することができます。欠品・絶版になるリスクもありません。出版された書籍にはISBNが付与され、ウェブサイト「Otsuma eBook」より世界中に発信されます。

Otsuma eBook Recommended Titles

≫ <http://www.ihcs.otsuma.ac.jp/ebook/>

『三卷本宝物集 平仮名本 片仮名本 対照本文』

編者 小井土守敏・吉村桃実・和田あや香



大妻女子大学図書館蔵古活字版『宝物集』(平仮名三卷本)を翻刻し、併せて片仮名三卷本と本文の対照を試みたもの。『宝物集』は、平安末期、治承年間(1177~81)成立の仏教説話集。作者は平康頼とされ、嵯峨清涼寺の釈迦堂で僧俗が対話する形式をとり、多くの説話を引きつつ、仏法こそが至高の宝物であると語る。他作品に多くの影響を与えていることが知られており、中世文学を考えていく上では重要な作品。

発行:2015年2月20日
形式:PDF
ISBN:978-4-907136-07-9



大妻女子大学
文学部日本文学科 教授
小井土 守敏

大妻女子大学 戦略的個人研究費

大妻女子大学教員の研究活動の活性化・高度化、競争的外部資金への応募促進を目的とした助成制度です。助成の対象は、本学の専任教員による個人研究。平成26年に新設され、人間生活文化研究所は本学総務グループと協働して管理・運営に当たっています。

平成27年度 戦略的個人研究費 採択課題 (41件)

所属	研究代表者	研究課題
家政学部	青江 誠一郎	メタボリックシンドロームモデルマウスの腸内代謝物のメタボローム解析法の確立と食事因子の評価
家政学部	阿部 和子	乳児期における「望ましい未来を作り出す力の基礎を培う」保育所保育の検討
社会情報学部	生田 茂	最新の情報処理技術を活用した手作り教材の開発と教育実践
家政学部	石井 雅幸	小学校理科授業における考察場面での指導法の検討 一小学校教師の理科における考察の在り方の調査に基づいて一
社会情報学部	石井 義孝	新規ポリアミノ酸生産菌のゲノム解析
比較文化学部	井上 淳	ヨーロッパ連合(EU)理解を促す接近法としてのガバナンス・アプローチ研究
人間関係学部	大出 春江	高齢社会の生活支援におけるケアと空間の配分に関する研究
人間関係学部	加藤 美智子	女子大学生に対する「バウム」がもつ心理教育的意味に関する研究Ⅱ
短期大学部	鎌田 久子	主婦の食事づくり行動に関連する要因の検討
短期大学部	城殿 智行	他文化圏との比較を介した日本近代文学及び映画における死の表象の基礎研究
文学部	君嶋 亜紀	中世和歌にみる規範性と異端性の相克の解明—南朝和歌を視座として
文学部	熊谷 智博	集団間和解に対する人間性認知効果の社会心理学的研究
社会情報学部	黒瀬 奈緒子	絶滅が危惧される小型食肉目の孤立個体群化の程度の把握と持続可能な保護管理法の確立
文学部	小井土 守敏	中世偽書の生成 一『義経虎之巻』を中心に一
人間関係学部	小谷 敏	ディズニー化と地方自治 一「マンガ王国とっとり」の研究
文学部	里見 脩	台湾総督府による言論統制の検証 一台湾日日新報を通して一
家政学部	高波 嘉一	若年女性における骨格筋内脂肪蓄積が肌状態に及ぼす影響
家政学部	高橋 ゆう子	自閉症スペクトラム症児と養育者の相互行為の分析
短期大学部	高橋 ユリア	一人の食事を楽しむフードコーディネーター教育
短期大学部	竹内 知子	出芽酵母の局在化RNAが細胞周期に与える影響の解析
文学部	田中 東子	女性の文化におけるオンライン・メディア使用に関するアジア圏での比較調査
家政学部	田中 直子	リアルタイムイメージング技術を用いたインスリン分泌能評価系の構築(Ⅱ)
人間関係学部	丹野 眞紀子	介護支援専門員に対するグループ・スーパービジョンの効果に関する研究
短期大学部	手呂内 伸之	根粒形成におけるサイトカイニンの役割
短期大学部	中山 愛理	アメリカ図書館整備期における女性図書館員の役割・位置づけの解明に向けた基礎的研究
人間関係学部	二瓶 さやか	介護福祉士養成教育における家政学科目のあり方に関する研究 一食事支援の視点から一
文学部	古川 敏明	ハワイ語新聞の言説分析
人間関係学部	千川 剛史	地域連携デジタル・ネットワーキングに関する研究
家政学部	堀江 正一	LC-MS/MSによる果実中の防カビ剤の同時分析法の開発と残留実態調査
文学部	松田 春香	相撲の国際化の端緒—朝鮮半島における相撲の受容
文学部	森岡 修一	ロシアにおける教育改革と教師教育の現代化

▶ 学長要望課題「大学教育の改善に関する研究」

家政学部	阿部 栄子	和服製作技術の構造と教習課程の検討
家政学部	市川 博	e-Learningを活用したアクティブ・ラーニングの検討
家政学部	大網 美代子	主体的な学びのための持続的デザインシステムの構築
文学部	日下部 尚徳	大学教育における国際理解教育の実践に関する比較研究
短期大学部	土肥 麻佐子	「いいことを探して健康な生活をリードする力を養う」家政科教育のための一試行
家政学部	中川 麻子	大妻手芸教育の社会的影響—明治・大正時代における女子教育と手芸文化の関連(2)—
人間関係学部	西河 正行	正課外教育における大学生の精神的不適応に対する予防グループの試み
国際センター	服部 孝彦	英語の授業で論理的に考え、書く力を育成するための教材開発
人間関係学部	福島 哲夫	個別指導場面および心理療法場面における即時的効果測定としての経験サンプリング法に関する萌芽的研究
人間関係学部	古田 雅明	医療領域における臨床心理実習のルーブリック評価に関する研究

日本学術振興会 科学研究費助成事業 平成27年度採択課題

▶ 新規

種目	研究代表者	所属	研究課題	研究期間
基盤研究(A)	大澤 清二	人間生活文化研究所	人が生育する限界的環境に於ける発育発達(生活技術の発達を含む)と成熟の総合的研究	H27~H30
基盤研究(C)	荒川 潔	社会情報学部	移行期における次世代自動車の開発と普及のための税制と規格、規制の理論・実証分析	H27~H29
基盤研究(C)	伊藤 正直	社会情報学部	1960年代のG10とOECD/WP3	H27~H29
基盤研究(C)	落合 友四郎	社会情報学部	金融市場の高頻度データ解析とリスク管理への応用	H27~H31
基盤研究(C)	佐藤 実	比較文化学部	近世中国におけるムスリムの問答体文献の研究	H27~H29
基盤研究(C)	團野 哲也	家政学部	ユーザーにフレンドリーな高精度3次元ファッション・デザインシステムの開発	H27~H29
基盤研究(C)	土肥 麻佐子	短期大学部	「量産衣料のデジタル仮縫い工房」開発のためのベーシックパターンモデルの検討	H27~H29
基盤研究(C)	内藤 千珠子	文学部	日本語文学における検閲とジェンダー	H27~H31
基盤研究(C)	正村 俊之	社会情報学部	ガバナンスのリスク社会論・監査社会論的研究——資本主義と民主主義の現代の変容	H27~H29
基盤研究(C)	渡邊 顕彦	比較文化学部	ラテン語詩と近世初期日本の交差	H27~H29
挑戦的萌芽研究	五味 潤典嗣	文学部	日中戦争の記憶と表象に関する総合的研究——1940-1960年代を中心に	H27~H29
挑戦的萌芽研究	高橋 寿美子	人間生活文化研究所	作家の計量分類による日本近現代文学史の構築	H27~H29
挑戦的萌芽研究	寺石 雅英	キャリア教育センター	リアルオプション・アプローチを用いたプロスポーツチームの価値評価手法の開発	H27~H29
挑戦的萌芽研究	水谷 千代美	家政学部	寝たきり高齢者のQOL改善のための機能性繊維の応用に関する研究	H27~H29
若手研究(B)	赤松 美和子	比較文化学部	台湾ニューシネマとそれ以降の台湾映画における「日本時代」表象研究	H27~H30
若手研究(B)	久保 忠行	比較文化学部	民族誌的アプローチにもとづく難民の定住プロセスの国際比較研究	H27~H29
若手研究(B)	松本 早野香	社会情報学部	「語り」の蓄積からコミュニティの物語を出力する地域デジタルアーカイブの構築と運用	H27~H29

▶ 継続

種目	研究代表者	所属	研究課題	研究期間
基盤研究(B)	柴山 真琴	家政学部	日系国際児のバイリテラシー形成過程の質的探究とその展開	H26~H30
基盤研究(B)	水谷 千代美	家政学部	消臭抗菌抗アレルギー繊維の機能性評価と介護医療分野への応用	H26~H29
基盤研究(B)	石川 照子	比較文化学部	戦時上海におけるメディア(新聞・雑誌)の総合的研究	H25~H27
基盤研究(B)	吉原 直樹	社会情報学部	海外日本人社会における移民主体の変容とコミュニティの再形成に関する経験的研究	H25~H28
基盤研究(B)	下田 敦子	人間生活文化研究所	東南アジア伝統衣服製作技術体系の解明と伝承教育最適化のためのプログラム開発	H26~H29
基盤研究(C)	木戸 雄一	文学部	地方青年結社における「文」の実践に関する社会史研究	H26~H28
基盤研究(C)	熊谷 智博	文学部	集団的尊敬による集団間紛争解決過程の解明	H26~H28
基盤研究(C)	高田 馨里	比較文化学部	第二次世界大戦期、米英両国の世界地理認識の比較研究 —地図史研究の方法論を用いて—	H26~H28
基盤研究(C)	鄭 映恵	人間関係学部	「表現の自由」とヘイト・スピーチ法規制をめぐる社会学的研究	H26~H28
基盤研究(C)	福島 哲夫	人間関係学部	初心者および中級者への継続的スーパーヴィジョンの効果とプロセスに関する実証的研究	H26~H28
基盤研究(C)	藤村 考	社会情報学部	属性付きグラフのレスポンス可視化の研究	H26~H28
基盤研究(C)	高木 元	文学部	近世近代の枠を越えた十九世紀紹介小説史を記述するための書誌学的研究	H25~H28
基盤研究(C)	酒井 朗	教職総合支援センター	社会的排除と包摂の観点からみた高校中退問題に関する研究	H25~H27
基盤研究(C)	小林 実夏	家政学部	栄養士養成施設卒業生、在校生の健康リスクとBMI、体脂肪率に関する横断・縦断研究	H25~H28
基盤研究(C)	松本 暢子	社会情報学部	資産運用型「賃貸併用住宅」の市街地更新およびコミュニティへの影響と効果の分析	H25~H27
基盤研究(C)	上杉 宰世	家政学部	中高年女性の健康力と若年期の食生活・生活習慣に関する縦断研究	H25~H29
基盤研究(C)	池田 緑	社会情報学部	現代日本と沖縄をめぐる社会意識の動態に関する探索的研究	H25~H27
基盤研究(C)	田代 洋一	社会情報学部	広域合併農協内に「小さな農協」を創るための条件分析 —支店拠点化を軸に—	H25~H27
基盤研究(C)	天野 みどり	文学部	日本語の自動詞構文と意味に関する研究	H25~H27
基盤研究(C)	本郷 健	社会情報学部	共通教科「情報」における情報的な見方・考え方を育成するカリキュラム開発	H25~H27
基盤研究(C)	青江 誠一郎	家政学部	穀類の摂取による抗炎症作用の臓器間クロストークの研究と有効成分の探索	H24~H27
基盤研究(C)	竹内 知子	短期大学部	分裂酵母新規DNA領域局在化RNA群の解析	H23~H27
挑戦的萌芽研究	吉原 直樹	社会情報学部	原子力防災訓練の検証と地域コミュニティの再審	H26~H27
挑戦的萌芽研究	城殿 智行	短期大学部	欧米並びにアジアとの比較を介した日本近代文学及び映画における死の表象の再構築	H26~H28
挑戦的萌芽研究	大澤 清二	人間生活文化研究所	僧院における統制されたライフスタイルが少年僧の発育発達に及ぼす影響	H26~H27
挑戦的萌芽研究	壬生 尚美	人間関係学部	介護職員の就労意欲の向上にむけた介護現場の条件を探る —施設特性からの影響—	H25~H27
若手研究(B)	日下部 尚徳	文学部	バングラデシュ南部沿岸地域におけるサイクロン被災後の復興課題に関する研究	H26~H28
若手研究(B)	牧野 智和	人間関係学部	少年犯罪の社会問題化とその収束に関する社会学的研究	H26~H28
若手研究(B)	古川 敏明	文学部	ハワイ語ラジオ番組の相互行為分析	H25~H28

競争的外部資金の獲得支援事業

■ 大妻女子大学の科研費採択率(新規採択+継続分)が全国第16位、女子大学では第1位！ 家政・生活学一般の部では第3位と高順位をキープ！

文部科学省発表「研究者が所属する研究機関別採択率上位30機関(全国1,253の研究機関の2%にあたります)」で、本学は第16位(女子大学では1位)となりました。また、「細目別採択件数上位10機関(過去5年の新規採択の累計数)」では、家政・生活学一般で、第3位(女子大学では第1位)となりました。

詳しくはこちら↓をご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/_icsFiles/fieldfile/2013/10/31/1341053_01_1.pdf

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/_icsFiles/fieldfile/2014/10/20/1352401_2.pdf



研究者が所属する研究機関別 採択率 上位30機関 (平成25年度 新規採択+継続分)

機関名	採択率	採択件数	機関名	採択率	採択件数
1. 聖路加看護大学	96.0%	48	16. 大妻女子大学	66.1%	37
2. 一橋大学	76.4%	194	17. 福島大学	65.8%	102
3. 東京外国語大学	75.7%	109	18. お茶の水女子大学	65.7%	138
4. 政策研究大学院大学	75.0%	51	19. 独立行政法人国立成育医療研究センター	65.6%	84
5. 成城大学	74.5%	38	20. 立教大学	65.2%	150
6. 統計数理研究所	73.5%	50	21. 愛知県がんセンター(研究所)	65.1%	41
7. 国立民族学博物館	73.0%	46	22. 岐阜薬科大学	64.8%	35
8. 国立教育政策研究所	70.2%	40	23. 国立障害者リハビリテーションセンター(研究所)	64.4%	38
9. 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター (東京都健康 長寿医療センター研究所)	69.0%	89	24. 上越教育大学	64.2%	61
10. 明治学院大学	68.1%	49	25. 東京大学	64.1%	3,659
11. 大阪教育大学	68.0%	87	26. 京都教育大学	63.8%	44
12. 東京学芸大学	67.9%	129	26. 松本歯科大学	63.8%	44
13. 九州歯科大学	66.9%	79	28. 独立行政法人国立循環器病研究センター	63.6%	150
14. 関西学院大学	66.8%	187	29. 国士舘大学	63.5%	33
15. 公益財団法人東京都医学総合研究所	66.4%	150	30. 専修大学	63.3%	76

*平成25年度科学研究費のうち、「奨励研究」を除く研究課題(新規採択+継続分)について分類したものです。 *研究代表者が所属する研究機関により整理しています。
*応募件数が50件以上の大学等を分析対象としています。(採択率=採択件数/応募件数)

■ 科研費申請講座「科研塾」

7月30日(木)に学内の方を対象に科研塾を開催します。
受講を希望される方は7月17日(金)までにお申込みください。

お申込み先 03-5275-6047 (千代田キャンパス内線 5650、info@o-ihcs.com)

今年度初めて科研費を申請される方は、昨年度の公募要領、研究計画調書等をよく読んでおいてください。

日本学術振興会科研費HP >> http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/03_keikaku/download.html



OTSUMA eBook Recommended Titles

>> <http://www.ihcs.otsuma.ac.jp/ebook/>

『大妻女子大学テキストシリーズ 日本古典文学入門』

編者 柏木由夫・君嶋亜紀・倉住薫・小井土守敏



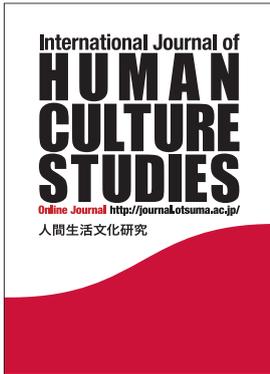
大妻女子大学文学部日本文学科で開講される「日本古典文学入門」のためのテキスト。この授業では、大学において専門的な古典文学を学んでいくために、必要な基礎的知識を身につけ、作品の丁寧な読み方を学ぶ。より深い作品理解に役立つ知識、月の異名や古時刻・古方位、建造物や旧国名などの古典常識の確認、京都及びその近郊の地理、有職故実、和歌の技法などを、原文に添いながら習得できるよう編集した。

発行:2015年3月3日
形式:PDF
ISBN:978-4-907136-08-6



大妻女子大学
文学部日本文学科 教授
柏木 由夫

オンラインジャーナル「人間生活文化研究:International Journal of Human Culture Studies」



「人間生活文化研究」は、2012年6月に人間生活文化研究所が創刊したオンラインジャーナルです。

本誌では「人間の生活と文化」に関わる研究論文の投稿を随時募集し、これまでに約60編の論文を掲載してきました。トピックは、被服学、食物学、児童学、ライフデザイン学、日本文学、英文学、コミュニケーション文化学、社会情報学、人間関係学、人間福祉学、比較文化学など広範囲に渡ります。

投稿者の資格に制限はありません。多言語対応、投稿無料で、査読を経た論文は迅速に掲載されます。また、J-STAGEに搭載されていることから、論文が世界中の人の目に触れる機会が格段に多くなります。

≫ <http://journal.otsuma.ac.jp/>



投稿無料

随時募集

投稿資格制限なし

原著論文・短報は査読あり

字数制限なし

▶ 原著論文

巻号	論題	著者
No.25 (2015)	Ways of changing students' behavior towards healthy school environment: Experiences from an action research	Lila Bahadur Vishwakarma (Kallery Secondary School, Nepal)
No.25 (2015)	心理学教育を通じた社会人基礎力の育成	西河 正行(人間関係学部) ほか
No.24 (2014)	近現代日本における育児行為と育児用品にみられる子育ての変化に関する一考察	阿部 和子(家政学部) ほか
No.24 (2014)	Field notes on the dietary habits of the Mlabri hunter-gatherers in Thailand	Seiji Ohsawa (Institute of Human Culture Studies) et al.
No.24 (2014)	日本語と中国語における確率的言語知識構造の比較研究	張 寓杰(東京工業大学) ほか
No.24 (2014)	Characteristics of actions for sliding walk technique in Japanese traditional performing art -Pursuit for Rhythm of Jyo-Ha-Kyu, "introduction, development, and climax" of Hakobi (sliding walk) from proficiency difference in Kyogen actors-	Yui Morita(NPO association for Education of Japanese Traditional Performing Arts) et al.
No.24 (2014)	知的障害児の発育期における運動能力について	早川 公康(仙台大学) ほか
No.24 (2014)	Community knowledge and attitude towards regional developmental requirements in remote townships of Chin state, Myanmar -A questionnaire on sustainability and subsistence to overexploitation of natural resources-	Saumya Nilmini Senavirathna (Saitama University) et al.
No.24 (2014)	女子大学のキャリア教育における参謀型人材の育成	井上 俊也(キャリア教育センター)
No.23 (2013)	Effects of training with hot spring and cognitive movement training machine for middle-aged and elderly person	Kimiyasu Hayakawa (Sendai University) et al.
No.23 (2013)	介護職員の仕事の満足感・やりがい感に影響を及ぼす要因 -ユニット型施設と従来型施設による比較-	壬生 尚美(人間関係学部) ほか
No.23 (2013)	冷戦期の「文学大使」たち -戦後日米のナショナル・アイデンティティ形成における米文学の機能と文化的受容-	鈴木 紀子(文学部)
No.23 (2013)	風を可視化するフィジカルコンピューティング作品(風色計)の開発	森崎 巧一(森画廊) ほか
No.23 (2013)	日本人の糖質摂取量評価方法の開発	高田 祐里(短期大学部) ほか
No.22 (2012)	A New Statistical Model and a Redefinition of Isotopic Ratio: Correction and Evaluation in Ultra-microanalysis	Takahito Osawa (Japan Atomic Energy Agency)

▶ 短報

巻号	論題	著者
No.24 (2014)	文や文節をハイライトしながら同期をとって読み上げを行う電子書籍を用いた音読活動の取り組み	生田 茂(社会情報学部) ほか
No.24 (2014)	近代日本文学におけるイメージと文学のかかわりについての研究	清水 沙也加(人間文化研究科) ほか

▶ オンラインジャーナルの最新号およびバックナンバーはホームページよりご覧いただけます。≫ <http://journal.otsuma.ac.jp/list.html>



科研費申請について情報を発信しています。(学内者向け)



学内の研究費助成事業に関する情報を発信しています。



未刊行の研究資料などを電子書籍として出版できます。

人間生活文化研究所 研究費助成事業関連 カレンダー

2015年

	科研費(日本学術振興会)	戦略的個人研究費	共同研究プロジェクト	研究員研究助成	大学院生研究助成(A)(B)
7月	7.17 平成27年度実施課題 夏季休業に伴う執行伝 票受付締切 平成28年度 科研費申 請書 学内締切まで約 3カ月		7.13 夏季休業に伴う予算執 行伝票の研究所受付締 切(17時迄)	7.10 夏季休業に伴う予算執行伝票の研究所受付締切 (17時迄)	7.3 (B)大学院生研究員願 書締切
8月	8.4 夏季休業開始 平成28年度 科研費申 請書 学内締切まで約 2カ月	8.4 夏季休業開始			
9月	初旬 平成28年度科研費公 募開始(昨年度は9.1) 9.1 平成27年度実施課題 執行伝票受付再開 上旬 平成28年度「申請有 無についてのアンケート」 配付(大妻学院総務 グループ) 9.11 夏季休業終了 平成28年度 科研費申 請書 学内締切まで約 1カ月				
			9.11 夏季休業終了		
		9.30 平成26年度採択課題 の研究成果報告締切 (ジャーナルへの「原著」 「短報」投稿)	9.14 予算執行伝票の研究所受付再開 9.25 平成26年度採択課題の研究成果報告締切 (ジャーナルへの「原著」「短報」投稿)		
10月	中旬 平成28年度 科研費申 請書学内締切				
11月				11.5 図書の予算執行伝票の研究所受付締切(17時迄) 11.5 中間報告書締切 11.10 平成28年度研究員願 書受付開始(1.22迄)	11.5 (A)中間報告書締切 11.10 (B)中間報告書締切
		11.17 中間報告書締切			
12月	12.4 平成27年度実施課題 (補助金分、最終年度で ある基金分。)の「備品」 執行伝票最終締切 12.4 平成27年度実施課題 冬季休業に伴う執行伝 票受付締切 12.23 冬季休業開始		12.14 冬季休業に伴う予算執 行伝票の研究所受付締 切(17時迄。なお、図書 を除く「設備備品」予算 執行伝票の研究所受付 は最終締切となります。)	12.11 冬季休業に伴う予算執行伝票の研究所受付締切 (17時迄。なお、「設備備品」予算執行伝票の研究所 受付は最終締切となります。)	
			12.23 冬季休業開始		

※ このカレンダーについてのお問い合わせ先は、☎03-5275-6047(千代田キャンパス内線5650)です。



大妻女子大学人間生活文化研究所

〒102-8357 東京都千代田区三番町12番地
大妻女子大学千代田キャンパス図書館棟6階
Tel: 03-5275-6047 Fax: 03-3222-1928 E-mail: info@o-ihcs.com
HP : <http://www.ihcs.otsuma.ac.jp/>



▶ ニュースレターの最新号およびバックナンバーはホームページよりご覧いただけます。